

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜5番丁62-1
四国医療専門学校 作業療法学会内
(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://www18.ocn.ne.jp/~k-ot/> E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

多職種連携に大切だということ

二つの世界的大企業・京セラとKDDIを創業した稲盛和夫氏¹⁾は、このようなメッセージを伝えております。

「世の中が豊かになるにつれて、自己中心的な価値観を持ち、自己主張の強い人が増えてきたといわれています。しかし、この考え方ではエゴとエゴの争いが生じ、チームワークを必要とする仕事などできるはずはありません。自分の能力やわずかな成功を鼻にかけ、倨岸不遜になるようなことがあると、周囲の人たちの協力が得られないばかりか、自分自身の成長の妨げにもなるのです。そこで集団のベクトルを合わせ、良い雰囲気を保ちながら最も高い能率で職場を運営するためには、常にみんながいるから自分が存在できるという認識のもとに、謙虚な姿勢をもち続けることが大切です。」

リハビリ専門職は、一部の人から「挨拶ができない人たち」、「専門性を振りかざす人たち」、「主役になりたがる人たち」と思われていることがあります。これからの地域包括ケアシステム構築には、多職種連携が必要不可欠です。そのため、謙虚で相手の立場に立った助言を意識することが大切だと感じます。相手の立場に立つということは、相手の事を知らなくてはなりません。つまり、相手に興味を持つことだと思えます。普段の臨床では、患者さん・利用者さんの事を知ろうと努力します。加えて、多職種についても今以上に知る努力が大切だと感じます。

当たり前と感じられていると思いますが、私自身が今一度認識し直さなければいけないと感じ、記載させて頂きました。私の役割の一つとして、県士会員の皆様へのMTDLP普及があります。MTDLPの考えを持つ作業療法士が、国民の皆様役に立つ職種だと知って頂けるよう精一杯努力します。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。



創心会リハビリ倶楽部高松中央

若林 佳樹

〔引用文献〕1) 稲盛和夫 京セラフィロソフィ 株式会社サンマーク出版 2014、P71-72

先輩の声



No.28 赤沢病院

大平 あゆみ

(13年目)



作業療法士になって、数年が経ちました。私の勤務している赤沢病院は、いくつかの部署に分かれていて、その中の一つである精神科デイケアにて勤務をしていた頃改めて思った事があります。

させられてする事ほど、楽しくないものは無い。

ましてや、お金を払ってまで辛い事を強いられたくはない。

人には必ず得手不得手があるという考えの元生きてきた私からすると、職員から無理矢理『社会復帰の為』『治療の一貫ですから』と、したくない事をしなくてはいけない。こんな辛い事があるのでしょうか。

〇〇だから〇〇はしたくないはっきりと意思を表出する事が出来るメンバーさんもいれば、出来ないメンバーさんもいます。

出来ないメンバーさんに対して、どう関わるか…?

そんな事Yahoo!の知恵袋や、Siriに聞いても教えてくれません。

結局は、これで本当に良いのかと不安になりながらも、失敗し、学習し、経験しなければ目の前にいるメンバーさんがその時間良いと思い過ごす事は出来ないと考えています。

したくないのにする事は辛い。

でも、一緒に考えて一緒に進んでくれる人がいれば、したくなかったけれども、して良かったと思える作業や、時間、出来事になるかもしれない。

言葉にすれば簡単かもしれませんが、心情を汲み取り、理解し、共感し、一緒に考えて一緒に進む。

一つ一つの関わりを大切に、これからも修行をしていきたいと思っています。

No.29 整形外科 吉峰病院

西川 絵里香

(4年目)



作業療法士として4年が経とうとしていますが、自分の技術・知識不足に日々焦りを感じています。

2017年の夏に大阪からかがわへ引っ越し、現在も作業療法士として勤務しています。以前は回復期の病院で勤務していましたが、現在は主に急性期の患者様を中心にリハビリを行っています。その中で、患者様の状態の変化を見極めながら、今後何が必要か・どうなっているのかを考え、評価し、治療する難しさを感じています。

しかしそれは、環境や経験年数、患者様が変わっても永遠の課題だと思っています。これからも作業療法士として追及していきたいと思っています。

フットサルチーム 「まんでガンバ！讃岐」 がくれた絆

第3回 活動報告

いわき病院の北村氏からの声は三光病院の松下氏、そして五色台病院改め、こころの医療センター五色台のデイナイトケアに通う利用者の方々にも届いています。北村氏からフットサルプログラムのお誘いを受け、練習へ参加させていただいたことが始まりでした。当施設の利用者は若年層の方も多く、好奇心と力溢れる若者たちにとってフットサルプログラムは力を発揮する絶好の環境だったようです。次第に練習への参加が増えていき、四国チャンピオンズリーグ大会前には10名程度の選手が集まりました。施設内でも選手たちが自ら集まり空いた時間にフットサルの練習を行うようになりました。四国チャンピオンズリーグ大会を終えると共に目標を失った当施設の選手たちのやる気は日を追うごとに低下してしまいました。しかし2018年4月に四国チャンピオンズリーグ大会の開催が決定し、やる気を取り戻した当施設の選手たちを含めた「まんでガンバ！讃岐」の活躍をまた報告出来ればと思います。



⚠ 重要：再度ご確認ください！

**平成30年3月31日時点で複数年度会費未納者は
県士会退会扱いとなります**

詳細は1年前の平成29年3月発行県士会ニュース第70号に掲載しています。（県士会ホームページの広報誌バックナンバーから確認できます）

既に納入している会員におかれましては、同施設OT、同級生の県内OTへの連絡周知のご協力をお願いします。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

連載企画5 第二弾

「地域ケア会議」

第2話

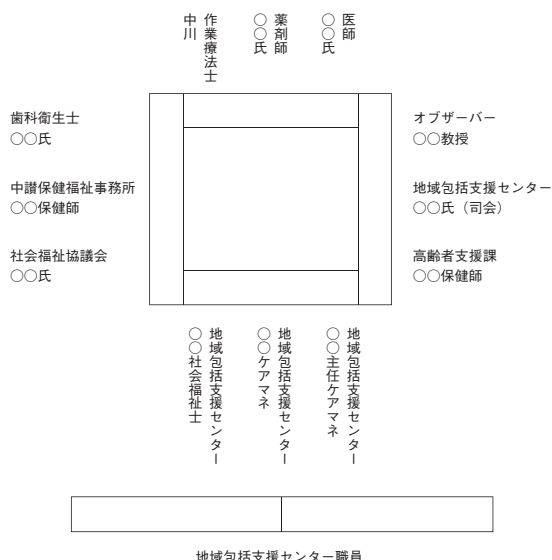
介護老人保健施設 白寿の杜 中川 真人

皆さん、こんにちは。今回は丸亀市の「地域ケアコミュニティ会議」の具体的な内容などについて紹介します。

まず、どのようなケースが選定されるかについてですが、①支援が必要だと判断されるが、医療や介護等の適切なサービス等につながらないケース、②支援が自立を阻害していると考えられるケース、③支援者が困難を感じ、専門職による多面的な検討が必要と思われるケース、④新規のケアプランでコンサルテーションを受けたいケース、⑤継続のケアプランで思うような改善がみられないケース、⑥介護サービスを利用しており、医療ニーズの高いケース、⑦認知症のある一人暮らし、あるいは高齢者世帯で課題解決が困難なケース、⑧地域の潜在課題が予測されるケース等、その他地域が必要と考えるケース、といった様々な問題が山積しているケースが選定されていました。

次に、会議の参加者についてですが、図の座席表を参照して下さい。（前回のニュースに掲載していた写真が実際の会議中の様子です。）私が座っている正面に、事例を提案する地域包括支援センターのスタッフが毎回、交代で座るという形でした。事例提供者以外のメンバーはほぼ固定となっていました。開催日程と頻度については、月1回（毎月第3火曜日）、19時から20時半で行っていましたが、困難事例の検討が多く21時ぐらいまでかかることも多かったです。場所は、丸亀市保健センター（ひまわりセンター）4階の会議室で行っていましたが。会議で使用される資料は、①アセスメントシート、②課題分析、③支援計画の3部で、個人情報保護のために会議終了後、毎回回収されていました。会議の進め方について、まず所要時間は、ケアプラン1件あたり30分程度で検討を行い、1回の会議で検討するプランは3件となっていました。ただし、会議運営が安定するまでの最初の2回は2件ずつ行っていました。今回はここまでで、次回に具体的な会議の進め方を説明したいと思います。

地域ケアコミュニティ会議 座席表（〇月〇日）



No.15
病院紹介

高松協同病院

宮崎 淳

高松協同病院は2002年に、回復期リハビリテーション病棟として診療開始しました。その後、サービスの一層の充実・向上を図るため、リハビリ室の拡張、また2011年には新病棟の増設により45床から85床へと増床し、病棟・外来・訪問・通所にて97名（PT45名、OT37名、ST15名）のリハビリスタッフを配置し、他職種と共に、現在の協同病院として運営しています。

「あなたの笑顔が、私たちの喜びです」という目的理念と、（人権の視点）（医療サービスの視点）（地域連携の視点）（利用者に寄り添う視点）（職員教育の視点）（社会保障・平和の視点）の6つの行動理念にそって、様々な職種がそれぞれの専門性を最大限に発揮し、患者様を中心としたチームとなり協働しています。

病棟では、生活に密着した日常生活向上への取り組みとして、実際の朝夕のADL場面への介入をおこない、ADL動作が早期に自立できるよう、早出・遅出勤務の実施。また楽しみながらのリハビリ提供として、2ヶ月に1回、大きなイベント（花見、運動会、秋祭り等）を開いているほか、毎日ミニ遊戯リハビリテーション、各職種主催の学習会、おやつ作りなど多種のレクリエーションを開き、楽しみながらリハビリができる時間を作ることで、目的を持った離床につながっています。中でも、病棟を上げて取り組んでいるのが立ち座り体操です。音楽に合わせて、1回約50回の立ち座りを朝夕の2回行い、下肢の筋力強化や、心肺機能の向上などを図っているのですが、全ての患者様が一緒に行うことで、患者様同士のコミュニケーションや、日々の身体の変化に気が付けるなど、毎日のリハビリを支えている影役者となっています。そういった生活の中で、OTでは、ADLの獲得だけではなく、退院後の生活を見据え、患者様が行っていた趣味活動の再開や、復職などのバックアップが行えるよう、患者様や家族様の声に耳を傾けながら、日々懸命に取り組んでいます。今回は病棟でのリハビリテーションにクローズアップした紹介となってしまいましたが、充実した退院後の生活を送るため、訪問・外来・通所といった維持期との連携を行い、より生活に密着した医療を提供できるよう取り組んでいます。

最後に、宣伝にはなりますが、もっと詳細な内容、教育的取り組みだけでなく、病棟運動会などの様子もご覧いただける、当院HP（最近リニューアルしました！）をぜひご覧いただけたらと思います。



新入会員紹介

今年度も多くの方が県士会に入会されました。
これからよろしくお願いいたします。

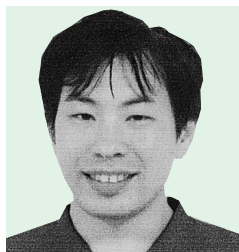
(順不同・敬称略)

①生年月日・血液型 ②出身地 ③出身校 ④勤務先 ⑤趣味・特技 ⑥職歴 ⑦自己アピール ⑧抱負



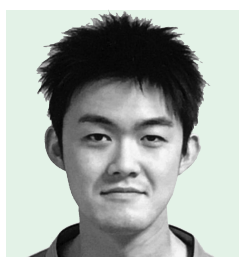
伊丹 修平

①平成5年6月17日・A型 ②香川県 ③高松北高等学校
④高松協同病院 ⑤釣り ⑥あきらめない



湊谷 真也

①4月20日・A型 ②高松市 ③穴吹リハビリテーションカレッジ
④高松協同病院 ⑤ラグビー・スノーボード ⑥調理師
⑧たとえ、自分に向いていない仕事であってもプロとしての自覚を忘れず
に、精一杯がんばりたいと思います。



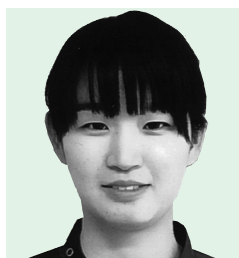
三木 逸平

①平成4年8月28日・B型 ②小豆郡 ③国際医療福祉大学
④特別養護老人ホームうちのみ
⑧栃木県から転居して来ました。まだ解らない事ばかりですが、
精一杯頑張ります！



岡崎 雄太

①平成2年11月3日・O型 ②香川県 ③四国医療専門学校
④医療法人ブルースカイ 松井病院
⑤野球、バドミントン、スノーボード、釣り、剣玉
⑥社会医療法人近森会近森リハビリテーション病院 4年間勤務
⑧出来ることを出来るだけ頑張ります。



福本 彩佳

- ①平成6年9月12日・A型 ②香川県 ③四国医療専門学校
④かがわ総合リハビリテーションセンター
⑤猫と遊ぶ ⑧患者様の出来ることを伸ばしていけるOTになります。



三好 洋平

- ①平成6年11月16日・A型 ②香川県 ③四国医療専門学校
④かがわ総合リハビリテーションセンター
⑤映画鑑賞 ⑧患者様の期待に応えられるようにがんばります。



川村 直人

- ①平成6年8月11日・A型 ②香川県宇多津町 ③四国医療専門学校
④香川県済生会病院
⑤サッカー ⑧日々学ぶことを忘れず向上心を高く持っています。



清水 健弘

- ①平成3年9月9日・A型 ②香川県さぬき市志度 ③川崎医療福祉大学
④屋島総合病院 ⑤旅行、手品
⑧未熟な部分はまだまだありますが、先輩方の様な作業療法士を目指します。



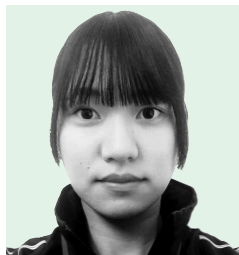
重松 菜月

- ①平成7年5月22日 ②愛媛県 ③愛媛十全医療学院 ④いわき病院
⑤趣味：買い物 特技：バスケット ⑦声の大きさだけは誰にも負けません
⑧元気と明るさを活かして、「おもしろい人」として覚えてもらえるような作業療法士になりたいです。



香川 知沙

- ①8月31日・A型 ②香川県観音寺市 ③四国医療専門学校
④医療法人社団 以和貴会 いわき病院 ⑤音楽
⑧分野にとらわれず、色々なことに興味を持って挑戦していきたいです。
よろしくお願ひ致します。



岡 千春

- ①平成8年2月1日 ②香川県 ③専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ
 - ④医療法人社団三和会しおかぜ病院 ⑤ハムスターのお世話
 - ⑧1日1日を大切に、多くのことを学んでいきたいです。
- よろしくお願いします。



豊富 なつ子

- ①平成7年7月22日・A型 ②徳島県徳島市 ③四国中央医療福祉総合学院
- ④高松医療センター
- ⑤フルートを吹くこと ⑦何でも一生懸命頑張ります。
- ⑧自分自身のスキルアップを図っていきたいです。



大下 拓人

- ①平成4年1月1日・O型 ②秋田県 ③穴吹リハビリテーションカレッジ
- ④医療法人圭良会 永生病院
- ⑤オカリナ演奏
- ⑧対象者様に信頼していただける療法士になれるよう努めます。



林 広野

- ①平成6年6月3日・O型 ②広島県 ③四国医療専門学校
- ④橋本病院
- ⑤バスケ ⑦笑顔が多く、誰に対しても大きな声であいさつをします。
- ⑧患者さんに楽しんでもらえるリハビリを提供します。



綾 聖加

- ①平成6年6月26日・B型 ②香川県 ③四国医療専門学校
- ④橋本病院
- ⑤カフェ探し ⑦ひどく落ちこんでも、立ち直る強いメンタルがあります。
- ⑧1人1人に対して、根拠ある評価と治療を行います。



大森 美季

- ③玉野総合医療専門学校 ④三船病院
 - ⑤音楽、アロマ、旅行が好きです。ペットの小鳥と遊ぶことも大好きです！
 - ⑦専門学校ではずっと手話を学んでいました！
 - ⑧学生時代に習得した手話をさらにレベルUPさせ、しっかりと活用できるOTになりたいです。
- 勉強会にも積極的に参加しようと思っておりますので、ご指導よろしくお願い致します！

地域へと目を向ける

聖マルチン病院 大平 一文

平成28年度より、香川県では認知症予防に向けた「認知症予防キャラバン事業」がはじまり、当事業の運営を3士会が委託を受け活動しています。当事業は、認知症予防に効果があるとされる「運動・栄養・社会交流」の三位一体による取り組みであり、市町の介護予防教室や長寿大学などに講師を派遣し講習を行い、県内全域に展開・普及を図るものです。香川県地域包括ケアシステム推進委員会では、講師の育成として「認知症予防運動指導者養成研修会」などの研修会を開催し、地域より依頼を受け会員の皆さまにも協力をいただいています。実際の内容としては、国立長寿研究センターの島田先生が考案されたコグニサイズを中心とした講習・実技により構成されており、参加された高齢者の方や介護サポーターの方などにも好評をいただき、年々依頼も増えています。私自身、教室へと出向き講習等を行っておりますが、普段の生活へと取り入れ易い内容でもあり、その日からすぐに始めることができる手軽さもそのひとつではないかと感じています。しかし、参加されている方々の能力等も様々であり、内容の難易度を調整する難しさや講師としてどのように伝えたいかなど、試行錯誤しつつ取り組んでいる現状です。研修会に参加されコグニサイズを理解された方の中でも、認知症予防キャラバン講師としての協力について、半数以上の方が自信がない・できないなどの反応を受けており、今後の課題とも考えています。実際に講師をされた方からは、『地域の方や市町の職員の方との接点となった』『人前で話す機会となり自信がついた』など好意的な意見が聞かれているのも事実です。成果を出す為にはどのようにすすめていくことが良いか、会員の皆さまが参加し易いものなどできるかなど課題は多いです。地域へと目を向けるきっかけとなる当事業、県士会員全員で盛り上げていきましょう。

MTDLP特設委員会からの活動報告

みなさん、こんにちは！今回、活動報告をさせていただきます。

「生活行為向上マネジメント(MTDLP)」を聞いたことがない会員は、ほぼいないのではないかと思います。しかし、基礎研修・実践者研修を修了された方は、まだ少ない状況です。下記の表をご覧ください。

○香川県の研修修了者・指導者数

(平成30年1月1日時点)

※日本作業療法士協会会員で香川県在籍のOT数で計算されております(674名)。

	人数	修了者率
基礎研修修了者	242名	36%
実践者研修修了者	27名	4%
指導者	2名	

MTDLP特設委員会では、皆様に案内させて頂いている通り、基礎研修講師や事例検討会など行っています。

「事例検討会の様子」

平成30年1月25日、三豊総合病院にてMTDLP事例検討会①を開催いたしました。6人の先生が発表して下さいのため、2グループに分けて進行了ました。急性期に関わる先生方の発表でしたので、入院中のリハビリ、外来リハビリなど多岐にわたり素晴らしい発表でした。



事例検討会の様子

今後もMTDLP普及のためにより一層努力していきます。困り事は何でもご相談ください。よろしくお願いいたします。

MTDLP特設委員会委員長 若林 佳樹

New!

リレーエッセイ③

廣瀬 正敏

(済生会病院)

瀬尾 滉貴

(香川大学医学部付属病院)

多田 奈津美

(高松赤十字病院)

私は作業療法士として高松赤十字病院で働いています。職場はみんな仲が良く、毎日楽しく仕事を行っています。

当院は総合病院であり、様々な疾患の患者さんに対して介入させて頂いています。近日は、緩和ケアチームの一員としてがん患者さんとの関わり、呼吸療法認定士を取得出来たため、人工呼吸器装着患者や呼吸器疾患患者への作業療法をどう行っていくか、手の外科疾患のハンドセラピーなど、様々なことに悩みながら、日々勉強させて頂いています。気づけば、7年目になりました。自分の作業療法について悩む日々ですが、先生方にアドバイスを頂きながら日々精進していきたいと思っています。

毎日仕事を頑張る中で、私にとっては休息の時間がとても大切です。私は流行り物が好きな、いわゆるミーハー女子です。笑 昨年、一眼レフカメラを購入し、今流行のインスタ映えする写真を撮ることが1つの趣味です。旅行へ行ったり、友達とキャンプやパーティをしたり・・・友達と一緒に季節を感じながら楽しむことを探しています。楽しみがあるから仕事が頑張れる。私らしく、仕事も休日も楽しんで、毎日頑張ります！



四国四県同時啓発活動

松井病院 安藤 瑞基

平成29年10月22日にゆめタウン高松にて広報部が中心となり、啓発活動を行いました。地域住民の方々に作業療法を知っていただくため毎年この時期にゆめタウン高松にて実施しています。当日の内容としては、自助具体験コーナー・握力測定コーナー・作業療法説明コーナーを設置してもらいました。今年は、台風の接近時であり足下の悪い中でしたが、多くの方が足を運んでくださいました。今後も、作業療法に興味を持って知って頂くとともに少しでも作業療法に触れていただく機会を作っていきたいと感じました。



開催報告

『生活行為向上リハビリテーション実施加算』 に関するアンケート調査結果について

制度対策部 川崎 真一

県士会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、制度対策部では昨年10月に県士会員所属の介護保険領域61施設に対し「生活行為向上リハビリテーション実施加算」についてのアンケートを実施しました。
52施設（回答率85.6%）から回答を得ましたので、その結果をご報告させていただきます。

アンケート結果

- Q1** 貴施設の作業療法士における、MTDLP基礎研修の受講状況を教えてください。
・受講者73名 ・未受講者134名
- Q2** 現在貴施設では、生活行為向上リハビリテーション実施加算を算定していますか？
A. 算定している（1施設） B. 算定していない（39施設）
C. 今後算定予定（0施設） D. 算定予定なし（10施設）
- Q3** 『A. 算定している』と答えた施設様は、以下の質問にお答え下さい。
① これまでに算定した対象者は？（4名）
② 算定した対象者において、6か月以内で算定終了後はどのようになりましたか？
・ 本人の希望で通所リハビリの利用継続中 ・ 2名は入院の為中止、1名は現在5か月が経過
③ 算定を実施するにあたり、どのような課題や問題点がありますか？
・ MTDLP開始の説明時には、通所リハ終了に納得されていたが、いざ終了となると自分が思っていたサービスがない為、継続を希望する場合がある
・ 月に1回のリハ会議を開催するのが大変である
- Q4** 『B算定していない』と答えた施設様は、その理由を教えてください。
A. リハビリテーションマネジメント加算（Ⅱ）が未算定（21施設）
B. その他の算定要件を満たしていない（4施設）
・ 月1回のリハ会議は医師・ケアマネ・家族等の負担が多い ・ 実務研修を終了していない
C. 在籍する作業療法士の人数が少ない（7施設）
D. 対象となる利用者がいない（10施設）
E. 通常業務が多忙の為、実施できない（21施設）
F. その他
・ 家族やケアマネの理解が得られ難い ・ 卒業されない方が多い
・ ケアマネや利用者が希望していない ・ 利用料金が高くなる
・ デイサービスと比べ利用料金が高いと言われる
・ 次々と新しい目標が増える場合が多く、半年間で終了するケースが少ない
・ 通所リハと訪問リハを併用して介入した方が現実的と考えられる
・ 通所リハに作業療法士が在籍していない（2施設）
- Q5** 通所リハを終了した基準を充たし、社会参加支援加算（新規）を算定していますか？
A. 算定している（0施設） B. 算定していない（50施設）

日本作業療法士協会が「生活行為向上マネジメント」を重点項目に位置づけていますが、アンケート結果の通りMTDLP基礎研修受講率も低調（35.3%）であり、「生活行為向上リハビリテーション実施加算」を算定している施設も52施設中1施設のみ、また、新規に設けられた「社会参加支援加算」については算定している施設がありませんでした。加算はあるものの算定できておらず、現状では協会の方向性との乖離があるように窺えます。今後この差を少しでも埋める対策が必要ではないかと考えます。

最後になりましたが、アンケートにご協力頂きありがとうございます。今後とも制度対策部の活動にご協力お願い申し上げます。



作業療法周知会

副会長 前田 悠志

平成29年9月7日(木)総合病院回生病院にて西讃地区対象に、13日(水)専門学校穴吹リハビリテーションカレッジにて東讃地区対象に作業療法周知会を行いました。各施設のOT責任者に出席いただき、平成26年度以来2回目の開催となりました。

目的としては、OT協会や県士会の事業の報告と今後の流れや最新情報をお伝えし今後の臨床や県士会活動に活かしていただくことです。当日は松本嘉次郎会長から説明があり、質問や問い合わせも会議後多く見られました。日頃はホームページやニュース、メール連絡などで周知していますが、顔を合わせて伝えたり、話し合いの場が少ないのが現状です。

今後も定期的に機会を設け、会員に有益な情報をタイムリーに伝達していきたいと思っています。OT責任者や会員におかれましても、ホームページの定期的な確認や異動情報の伝達などご協力いただき、ご不明な点がありましたら事務局までご連絡いただければと思います。



第29回 四国作業療法学会 お知らせ

平成30年

10月27日(土) 10:00~16:30
28日(日) 9:30~12:00

レクザムホール(香川県県民ホール)
小ホール、多目的会議室、大会議室

テーマ

作業療法の未来 ~+αの可能性~

学会長……前田 悠志(しおかぜ病院) 内容(予定)……講演4題、セミナー6題、一般演題
学会事務局……学校法人大麻学園 四国医療専門学校 作業療法学科 水上 保孝
〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1 TEL:(0877)41-2330 FAX:(0877)41-2332
E-mail:shikokugakkai29@yahoo.co.jp(学会事務局専用アドレス)
主催……四国作業療法士会連絡協議会 担当……(一社)香川県作業療法士会

■ (一社)香川県作業療法士会ニュース No.73 ■

編集長:木村勇介 編集委員:伊賀智子・鎌田雄大・高橋優里・水口未紅・安藤瑞基・大谷知佳・田中美由喜・鎌田和奈・村上太気・善相原健史・瀬知杏奈・大島祐輝・細谷かぐや